

令和4年度の 富士山エコレンジャーの活動

令和4年度に入り、新型コロナウイルス感染症への認識や対応が変化し、屋外での活動制限が緩和されてきたこともあってか、富士山の登山者数は令和3年度よりも増えました。

富士山エコレンジャー・富士山エコサポーター（以降、富士山エコレンジャー等）の活動も少しずつなり、登山道等を歩いての環境パトロール実施延べ日数も増えました。



合同環境パトロール

富士山の登山者数（環境省発表）は、令和3年は約8万人でしたが、令和4年は約16万人まで増加し、新型コロナウイルス蔓延前の数字に近くなってきています（令和元年以前の登山者数は20万人台/年で推移）。

登山するすべての人が、準備をしっかり行い、マナーが良いとは限らないため、環境保全のために現場で登山者にマナーを教えたり、自然の解説をしたり、体調不良や負傷した方を助けられる人が必要となります。

富士山エコレンジャー等は、富士山の登山者に対して、マナーを守ってもらうようお願いしたり、自然の解説をすることを役割として始まったボランティア制度で、登山者が増えてくると、富士山エコレンジャー等の

活躍の機会も増えることとなります（過去に、富士山エコレンジャーが負傷者の応急対応をしたこともあります）。

ふじさんネットワークの正会員から推薦を受けて登録される富士山エコサポーターが、富士山エコレンジャーになるための研修では、動物、植物、地学、歴史関係、行政の施策、危機管理等、幅広く専門家の講義を受けることができます。研修を受けて知識を得たり、現場に足を運んで仲間や登山者とコミュニケーションを取ることで、知見を広めることもできます。

自分自身のスキルアップに加え、富士山の環境保全活動を行うボランティアになることを目指し、まずは富士山エコサポーターに登録してみようという有志の方をお待ちしております。



富士山エコレンジャー養成研修「自然関係③昆虫」

NEWS × COLUMN × REPORT

富士山登山者の 安全意識やマナーについて

令和4年の富士山開山期間中は、毎日のように高い頻度で遭難に関するニュースが報じられていましたが、開山日数63日で、50件51人が遭難・救助されたそうです。

遭難者を世代別に見ると、若年者の割合が多く、転倒等の怪我が減り、疲労で動けない等の理由が増えたそうです。

これは、登山経験が浅いための準備不足、体調管理が不十分、引き返すべき状況を見極められないこと等が要因だと考えられます。

富士山エコレンジャー養成研修には「危機管理」という科目があり、令和4年度は、静岡県富士宮警察署の山岳遭難救助隊の隊員を講師に迎え、研修を受けました。講義では、隊員の方は30kgの重りを背負って登山をしたり、人を背負って下山する訓練やヘリコプターによるホイスト訓練を行い、非常時に備えていると伺いました。

県警本部は救助要請があるとまず登山届の確認をするので、富士山に限らず登山をする時は登山届の提出も忘



富士山エコレンジャー養成研修「危機管理」

れないで欲しいとのことでした。

ツイッターも開設されており、「静岡県警察地域部地域課」で検索すればアカウン트가出てくるので、皆様（特に富士登山しようと考えている方）も御覧ください。登山の準備不足は、安全に関する話だけではなく、ごみの発生にも関わります。ごみやトイレのマナー関係では、イメージもあつてか外国人が取り上げられがちですが、安価な装備品を使用し、壊れたら捨ててしまうマナーを守れない人は、日本人にもいます。

富士登山に関するサイトは、環境省・山梨県・静岡県開設の「富士登山オフイシャルサイト」をはじめ数多くあり、準備やマナーについての情報は色々な方法で入手できるようになっています。

どのような準備をすれば登山時の安全が確保できるか、どのようなマナーがあり、守らなければならないか、富士登山を考えている方には事前に確認していただきたいと思えます。また、周りに富士登山を考えている方がいる場合には、準備をしっかりとって登山していただくようお願いいたします。お伝えいただけると幸いです。

